

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現状

学校番号	20	学校名	茨城県立水戸工業高等学校				課程	全日制		学校長名	川嶋 正人					
副校長	柳橋 正雄			教頭	木村 齊久				主査兼事務長	小池 孝						
教職員数	教諭	65	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	16	事務職員	5	技術職員等	2	計	103
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女			男	女					
	工業化学	14	26	13	26	13	25			40	77	3				
	機械	79	1	76	2	77	1			232	4	6				
	電気	77	3	76	4	72	8			225	15	6				
	情報技術	35	5	38	1	35	4			108	10	3				
土木	37	3	35	5	32	8			104	16	3					
建築	33	7	31	9	25	15			89	31	3					

2 目指す学校像

◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>学習意欲が高く資格試験等に積極的に取り組む生徒群と学習意欲があまり高くない生徒群の二極化が見られる。</p> <p>本校の学習意識調査では、約78%の生徒が「授業を真剣に受けている」と回答している反面、約56%の生徒が「家庭学習をほとんどしない」と回答している。</p>	<p>教員が生徒一人一人に具体的な目標を持たせ、その実現に向けたサポートを行ってゆく必要がある。</p> <p>学習意欲があまり高くない生徒に対して、家庭学習の習慣を身につけさせる事などにより、基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。</p>
進路指導	<p>令和2年度の進路状況は、就職者が198名(63.3%)、進学者は109名(34.8%)であった。公務員には10名が合格し、内定率は年内に100%に達した。</p> <p>また、4年制大学へは62名が進学し、国公立大学には8名が合格し、高専に1名が編入した。</p>	<p>個々の生徒の適性等を考慮し、企業選択のサポートを行っていくことが必要である。</p> <p>国公立大学への進学を継続していくための学習指導体制づくりを更に進めていく必要がある。</p> <p>大学入学共通テストについての情報の収集、準備が必要である。</p>

項 目	現 状 分 析	課 題
生活指導	1 毎月の頭髪服装検査の実施により、頭髪服装について改善されている。制服に関しては、25年度入学生から新制服を導入し、男子生徒は改善してきているが、一部の女子生徒の制服の着こなしについて課題がある。 2 自転車運転マナーに関する苦情があり、交通事故が危惧される。 3 盗難は、減少している。 4 駐輪場での自転車の止め方について指導していく必要がある。 5 挨拶運動等の実施により挨拶をする生徒が増えている。	1 服装規定を理解させ、制服をきちんと着るなど、校則を遵守する心を養う。 2 自転車運転マナー等の安全教育を徹底し、立哨指導等により交通事故等の防止を図る。 3 更に継続して、自転車鍵の2つ以上装着を励行させるなど、盗難防止に努める。 4 駐輪場以外の場所に禁止標識を設けるなど指導の徹底を図る。 5 更に元気な挨拶ができるよう環境を整える。
特別活動	1 学校行事に関しては、コロナ禍で軒並み中止になる中、後期クラスマッチを実施することができた。 2 部活動に関しては、活動が活発化し成績が向上したが、生徒の部活動加入率は約7割である。	1 各委員会活動をさらに活性化する必要がある。また、コロナ禍でどのように学校行事を実施していくか十分に検討する必要がある。 2 部室や活動場所について整理・整頓を促す必要がある。生徒の部活動加入率の向上。

4 中間的目標

1	キャリア教育・職業教育の充実を図り、学習目的と計画を「見える化」することにより生徒の自主性を育み、学力・技術・技能の向上を目指す。
2	望ましい職業観・勤労観の育成を図り、創造性豊かなものづくりに対応できる工業人の育成を目指し、資格取得合格率の向上を目指す。
3	より高度な科学技術を学ぶための基礎となる普通科目・専門科目の学習の充実を図り、就職内定率と国公立大学合格者数の向上を目指す。
4	生涯学習としての特別活動の意義を明確に伝えるとともに、部活動の活性化を図ることにより、知・徳・体のバランスがとれた教育を目指す。
5	道徳心の向上や心の教育を重視し、基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
ICTを活用した分かる授業 資格取得 進路実現	ICTを活用し、主体的で、対話的で、深い学びができる授業を実践し、分かる授業を目指す。資格取得や検定合格を目指し、専門性を高めるとともに、自ら学ぼうとする態度を育てる。生徒の進路実現を目指し、キャリア教育の充実を図る。
基本的生活習慣の確立 問題行動等の未然防止 教育環境の整備	規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を確立させ、水工生としての自覚と責任感を身に付けさせる。道徳心や公共マナーの向上を図るとともに、問題行動や交通事故の未然防止に努める。整理・整頓・清掃等、校内環境の美化に努め、安全・安心な教育環境を整備する。
部活動の活性化 学校行事を通じた交流 連携と情報発信 働き方改革の意識向上	部活動の活性化と強化を図り、自主性・協調性を育む。学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、充実感や達成感のあるものにする。中学校や大学と連携し、本校の教育活動や成果を広く内外に発信する。働き方改革について意識し、ワークライフバランスを整え、心身ともに健康な状態を維持し教育活動にあたる。